

令和

6

年度

事業者番号0462

事業所番号046200

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	
A	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)

(2) 事業所及び事業内容

代 表 事 業 所 名	荒木取水ポンプ所	前年度における事業所数	93
代 表 事 業 所 所 在 地	市 区 町 村 行田市		
	字 ・ 地 番 荒木4908		
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産 業 分 類 名 (中 分 類)	36 水道業		
分 類 番 号 (中 分 類)	36		
事 業 活 動 の 概 要	水道用水供給事業 工業用水道事業 地域整備事業		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計 画 期 間		2	年 度	～	6	年 度	
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる 排 出 量	7,611	t-CO2	基準となる 基 原 単 位	0.4950	t-CO2/千m ³ /年
		【第3計画期間】平成22年度排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を8%とする。					
	その他ガス						

(2) 第4計画期間の削減目標

計 画 期 間		7	年 度	～	11	年 度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる 排 出 量		t-CO2	基準となる 原 単 位	
削減目標	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所 在 地
1	荒木取水ポンプ所	行田市荒木4908
2	別紙参照	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

事業所リスト(1/4)

番号	事業所名	所在地
1	宮戸サージタンク	朝霞市宮戸4丁目7-18
2	溝沼サージタンク	朝霞市三原1丁目6-30
3	大野原サージタンク	川越市大字下赤坂1887-3
4	西原サージタンク	ふじみ野市苗間47-14
5	勝瀬サージタンク	富士見市大字勝瀬980-3
6	稲荷山サージタンク	入間市豊岡5丁目3
7	入間川サージタンク	狭山市入間川1丁目24-9
8	水野サージタンク	狭山市大字水野1108-3
9	上藤沢サージタンク	入間市大字上藤沢609-1
10	南永井サージタンク	所沢市大字南永井706-6
11	上尾幹線流量計室	さいたま市西区大字宝来641
12	苗間送水管路電蝕防止施設	ふじみ野市苗間253
13	笠幡送水管路電蝕防止施設	川越市大字笠幡300
14	下宗岡送水管路電蝕防止施設	志木市下宗岡1丁目11
15	西弁財送水管路電蝕防止施設	朝霞市西弁財1丁目11
16	南台送水管路電蝕防止施設	川口市南台1丁目10-1
17	西川口送水管路電蝕防止施設	川口市西川口4丁目7-1
18	三浦送水管路電蝕防止施設	さいたま市緑区大字三浦6902
19	南入曽送水管路電蝕防止施設	狭山市大字南入曽1075-1
20	稲荷山送水管路電蝕防止施設	狭山市稲荷山2丁目15
21	高畑送水管路電蝕防止施設	さいたま市緑区大字高畑911
22	堀兼送水管路電蝕防止施設	狭山市大字堀兼2354
23	新座水管橋左岸送水管路電蝕防止施設	新座市野火止2丁目4
24	新座水管橋右岸送水管路電蝕防止施設	新座市本多1丁目1
25	旧荒川水管橋左岸送水管路電蝕防止施設	さいたま市西区塚本町2丁目166-4

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

事業所リスト(2/4)

番号	事業所名	所在地
26	旧荒川水管橋右岸送水管路電蝕防止施設	富士見市大字東大久保3832
27	宝来水管橋送水管路電蝕防止施設	さいたま市西区大字宝来1228-2
28	黒目川水管橋送水管路電蝕防止施設	新座市畑中2丁目17
29	伊佐島水管橋送水管路電蝕防止施設	富士見市大字上南畑6-2
30	木染水管橋送水管路電蝕防止施設	富士見市大字上南畑3963
31	不老川水管橋送水管路電蝕防止施設	狭山市大字上赤坂43-4
32	入間川水管橋送水管路電蝕防止施設	川越市大字的場210-6
33	小畔川水管橋送水管路電蝕防止施設	川越市大字笠幡1127-4
34	西部系堤内外ゲート施設	さいたま市桜区大字在家618-2
35	青木水管橋送水管路電蝕防止施設	川口市青木3丁目765-3
36	川口Ⅱ系幹線鈴谷送水管路電蝕防止施設	さいたま市中央区鈴谷5丁目17
37	川口Ⅱ系幹線石神送水管路電蝕防止施設	川口市大字石神538
38	芝園送水管路電蝕防止施設	川口市芝園町1
39	新荒川横断右岸立坑	さいたま市西区塚本町2丁目9-3
40	新荒川横断左岸立坑	さいたま市西区大字三条町530
41	さいたま市北部線送水管路電蝕防止施設	さいたま市西区大字宝来1644-1
42	笹久保中継ポンプ所	さいたま市岩槻区笹久保1761
43	幸手注水ポンプ所	幸手市大字惣新田4201
44	荒木取水ポンプ所	行田市大字荒木4908
45	上尾・幸手幹線調整弁室	久喜市菖蒲町小林9359-2地内
46	白岡幹線調整弁室	久喜市太田袋540-9
47	杉戸幹線調整弁室	幸手市大字松石284-1
48	埼玉大橋添架橋送水管路電蝕防止施設(左岸)	加須市麦倉2689
49	川口水管橋送水管路電蝕防止施設	加須市川口1534
50	加須送水管路電蝕防止施設	加須市久下4-50-1

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

事業所リスト(3/4)

番号	事業所名	所在地
51	青毛堀川水管橋送水管路電蝕防止施設	加須市下高柳1
52	水門橋添架橋送水管路電蝕防止施設	加須市豊野台1－345－5
53	埼玉大橋添架橋送水管路電蝕防止施設(右岸)	加須市佐波96－1
54	新谷橋水管橋送水管路電蝕防止施設	久喜市菖蒲町小林6303-1
55	旧忍川水管橋送水管路電蝕防止施設	行田市小針1
56	羽生送水管路電蝕防止施設	羽生市加羽ヶ崎270－3
57	石田川水管橋送水管路電蝕防止施設	鴻巣市原馬室917
58	吉田林サージタンク	本庄市児玉町吉田林965
59	荒川第二水管橋送水管路電蝕防止施設	深谷市畠山957
60	土塩水管橋送水管路電蝕防止施設	熊谷市野原1050－3
61	古里サージタンク	嵐山町古里1145
62	赤堀川水管橋送水管路電蝕防止施設	桶川市五町臺180－2
63	江川水管橋送水管路電蝕防止施設	桶川市川田谷1
64	蓮田水管橋送水管路電蝕防止施設	蓮田市閨戸88
65	白岡送水管路電蝕防止施設	白岡市爪田ヶ谷123-6
66	和田川水管橋送水管路電蝕防止施設	熊谷市小江川2085
67	星川水管橋送水管路電蝕防止施設	加須市中種足60
68	五霞支線(東武日光線)送水管路電蝕防止施設	行田市持田2748
69	熊谷支線(秩父線)送水管路電蝕防止施設	久喜市間鎌1568
70	荒川水管橋(右岸)送水管路電蝕防止施設	熊谷市小八林1001
71	白岡ドッキング線電動弁室	蓮田市大字江ヶ崎1011
72	上尾幹線電動弁室	上尾市平塚2－1
73	新三郷幹線減圧弁	越谷市東町5－138－4
74	谷塚流量計	草加市谷塚町223－2
75	幹線3号	埼玉県八潮市西袋285

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

事業所リスト(4/4)

番号	事業所名	所在地
76	新三郷幹線流量計室	川口市木曽呂736-5
77	高倉中継ポンプ所	鶴ヶ島市大字高倉1042-6
78	高坂中継ポンプ所	東松山市大字西本宿200-1
79	瀬戸増圧ポンプ所	比企郡ときがわ町大字瀬戸236-3
80	東松山ドッキング調整弁室	鶴ヶ島市大字三ツ木176
81	東松山幹線調整弁室	比企郡吉見町大字上砂字下町5番2
82	吉見浄水場堤外ゲート	比企郡吉見町大字大和田1
83	取水口ITVカメラ	鴻巣市滝馬室1135-12
84	東松山幹線送水管路電蝕防止施設	坂戸市関間1-7-4
85	都幾川水管橋(右岸)送水管路電蝕防止施設	東松山市神戸177-3
86	高坂橋添架橋(左岸)送水管路電蝕防止施設	東松山市毛塚412-7
87	高坂橋添架橋(右岸)送水管路電蝕防止施設	坂戸市大字片柳265-5
88	滑川支線送水管路電蝕防止施設	比企郡滑川町大字月輪393
89	宿谷川水管橋(左岸)送水管路電蝕防止施設	日高市大字山根549-1
90	地域整備事務所	さいたま市大宮区大成町1-528-1
91	水道整備事務所	さいたま市桜区五関387-2
92	水道整備事務所 鴻巣駐在	鴻巣市鴻巣850
93	水質管理センター	行田市小針1632
94		
95		
96		
97		
98		
99		
100		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
	3,380	3,345	3,245	3,194	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	基準 7,611	6,633	6,620	6,384	6,271	
	前 年 度 比（％）	—	-0.2	-3.6	-1.8	
	基準となる排出量に対する 削 減 率（％）	12.8	13.0	16.1	17.6	
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		6,633	6,620	6,384	6,271	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和 2 年度 (2020年度)	令和 3 年度 (2021年度)	令和 4 年度 (2022年度)	令和 5 年度 (2023年度)	令和 6 年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	基準 0.4950	0.0081	0.0081	0.0078	0.0077	
	前 年 度 比（％）	—	-0.1	-3.7	-0.9	
	基準となる原単位に対する削減率(%)	98.4	98.4	98.4	98.4	
活 動 規 模 の 指 標	単 位					
生産量	千m3/年	821,116.32	820,152.94	821,076.92	814,043.01	

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	令和元年度工事により停止していた施設が令和2年度になり稼働再開したため排出量が増加した。
令和3年度 (2021年度)	昨年度より生産量が減少したため、電気使用量が減少し排出量が減った。
令和4年度 (2022年度)	・昨年度より生産量が減少したことに伴い、CO₂排出量も低減した。 ・高坂中継ポンプ所に設置している小水力発電設備について、令和3年度は漏水対応により約10か月間停止していたが、令和4年度は年間を通して発電を継続したためCO₂排出量が低減した。
令和5年度 (2023年度)	・高倉中継ポンプ所及び笹久保中継ポンプ所の送水量が減少したためCO ₂ 排出量が減少した。
令和6年度 (2024年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	企業局経営5か年計画による削減の推進 【継続実施】	R5	R5	
2	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	省エネルギー実施計画の策定 【継続実施】	R5	R5	
3	340500	発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	高坂中継ポンプ所小水力発電設備の設置		R1以前	
4	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高坂中継ポンプ所送水ポンプの回転数制御化		R1以前	
5	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	荒木取水ポンプ所取水ポンプの回転数制御化	R7以降		452.0
6	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	笹久保中継ポンプ所環水ポンプの高効率化及びダウンサイズ	R7以降		
7	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	笹久保中継ポンプ所常用運転ポンプの変更	R4	R4	43.0
8	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高倉中継ポンプ所送水圧力の低減	R6		
9	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高坂中継ポンプ所送水圧力の低減	R6		
10	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	企業局CO2削減推進会議の設置によるCO2削減対策の推進	R5	R5	
11	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	笹久保中継ポンプ所空調設備の高効率化	R5	R5	
12	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	笹久保中継ポンプ所照明設備のLED化	R5	R5	
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

自由記述欄

小水力発電設備の設置
平成23年度に温室効果ガスの削減を目的に、高坂中継ポンプ所に余剰圧力を利用した、小水力発電設備を設置した。

設備概要

最大電力	28kW
年間最大発電電力量	約24万kWh
水車型式	インライン型横軸斜流水車
最大使用水量	0.25m ³ /s
最大有効落差	18m

H24実績発電電力量	220,477kWh
H25実績発電電力量	246,502kWh
H26実績発電電力量	254,032kWh
H27実績発電電力量	248,981kWh
H28実績発電電力量	248,756kWh
H29実績発電電力量	247,842kWh
H30実績発電電力量	249,869kWh
H31実績発電電力量	252,780kWh
R2実績発電電力量	247,056kWh
R3実績発電電力量	23,667kWh
R4実績発電電力量	165,818kWh
R5実績発電電力量	209,109kWh